

ゐる。それがやがて歴史性の問題が社會性的の問題に關係をもつ所以でもある。今漸くこの歴史の問題が論争の種として飽かれ、實質的にその史料の探索に眼が向けられ出した事は興味ある事實である。日本文化史に於て、新しき視角度で事實を把握せられんとしてゐるけれども、その材料が特殊の選擇を経てゐるが故に常に仰がられたる事物しかゞ残つて來ない事は残念である。只わづかに徳川時代には、漸く腐朽よりまぬがれたる捨てられたる貴重なる記録が残つてゐるであらうと推測せられる。かゝるもの、輯録と發表は、實に今われわれにとりて望ましい事である。手島堵庵の全集の刊行はこの意味で貴重なる記録である。一堵庵をめぐる時代の背景はわれわれにとつて實に興味多い。日本文化が奈良平安鎌倉足利と貴族より宗教、宗教より武家へと權力が推移して、徳川の三百年はそれ等の權力をそれぞれの機能として動かしながら複雑な組織を構成してゐた。この時に漸くアルジョアジとして町民がそれとしての機能をもちはじめた。そして彼等自らの文化をつくり上げる。浮世繪、淨瑠璃、草子、川柳等々のものは彼等の特殊のものであり、共通的に支那印度の風俗なものが儒佛的觀念に對して鋭き皮肉をもち、日本人的感覚の出發點を求める。眞の日本人感覚が己自らの形態と形式をもつたのはこの時であるとも云へるであらう。

かゝる情勢のとき石田梅巖等によつて起されたる哲學的運動は日本人の哲學としては興味多いものである。殊に享保以後の經濟的誤謬がくりかへされ米經濟より貨幣經濟に轉換せんとするクリ

シスにあたつて、世人は深い不安の中に生きた、武家貴族のもつ儒佛的哲學は彼等に對して力がなかつた、市民は市民のよるべき哲學をもとうとした。落語でよく顯材となる心學が即それである。それは徹底した即物性を胎んだ哲學であり、その提唱者は呉服屋の主人か或は一介の農民である。それは藩學に對立し、或は激しき鬭争までなしてこれに抗した。或は常にプロックを組み、滑かに政治運動にまでつきす、むにも至り、ついに激しい斷崖の下をくだつてそれは發展したのである。手島堵庵はこの運動の組織者とも云ふべき位置に居る。その手記が長く京都明倫舎にかくれてゐたことは識者の惜しむところであつた。今それが世にあらはれしことは人々のよるこびであらねばならない。

(中井正一紹介)

ギリシア・ラテン講座 鐵塔書院發行

西洋の學問をする人々にとつてギリシア語の知識、ラテン語の知識は絕對に必要である。それは猶我々の國語國文を理解するのに漢文の知識が必要なのと同様である。現代の國語の口語文といへども漢文の知識が十分になくしては、正しい解釋は出來ない。まして學術的論文となれば尙更である。この關係は西洋近代語とギリシア語・ラテン語との關係にも當嵌まる。

本講座はギリシア・ラテンの二部に分れ、各六冊で完結する豫定である。今各部の第一冊を見るに、紙數の半ばを文法に割き専ら初學入門を標準に、成るべく繁を避け要を抜いて、要領を深切に示してある。ギリシア・ラテン語の如きはその入門に際し、文

法に通ずることが必要であるが、本書には恐らく熱心な讀者を満足せしめるであらう。文法の外に古代の文學史學哲學に關する解説や研究論文、近代語と古典語との關係に關する論文などを掲げて、進んだ研究の参考としてある。語學の獨習書や講義録の中には、加減なごまかしものが少くない。本講座はさういふ懸念なしに安心して讀めると思はれる。

(高橋俊乘紹介)

國民道德の倫理學 近藤兵庫著 培風館發行 基礎としての

倫理學と言へば常に西洋の倫理學を意味するやうな西洋中心的な考へ方は、も早や今日の我々日本人はやめたいものである。單に倫理學と言へば東洋西洋の倫理學を統一調和したものでなければならぬ。これは随分困難なことであつて、もと／＼文化系統の異なる東洋と西洋との倫理學説を完全に統一することは至難とも言へるであらう。やゝもすれば本に竹を繼いだやうになるが、本書は矢張り西洋倫理學に基礎を置いてゐるとは言へ、この點に特に努力してゐる。

又人類一般或は人道を普遍的に研究した倫理學と我が國民道德論とは從來全く別物に取扱はれて來た。前者は國境を超越して一般的に研究されるから、時として我が國體如何を省みないやうな事もある。國民道德論は多くは國史に本づく道德論となつて保守的因襲的となる。従つて前者は實踐に功なく、後者は現代の人を指導する力に乏しい。二者は統一されて始めて、現代日本人を指導する力が出るであらう。倫理學者の中には倫理學は善行爲に關する理論を明かにするものであつて、善行指導に役立つもので

はないと考へる人もあるけれども、本書の著者は之を排し、どこまでも實行指導をなすべきものと解してゐる。著者は倫理學の全範圍は「私を善くすること」と解してゐる。私は個人であるけれども、人は社會的動物である限り、全人類乃至宇宙を豫想し、又之を背景としてゐるから、結局、社會全體を善くすることにもなる社會に種々の段階及び種類があるけれども、今日の人類に於ては國家が最も重要な社會であり、最も強固な社會であるから、國民道德が實踐上最も力を持つた道德となる。嚴密に言へば國民道德は普遍道德よりも狭いから、我が國民道德は勿論、一般道德の部分にすぎないが、日本人としての「私」の改善には倫理學も國民道德論も同じ効果を有する。況んやかゝる國民道德論は日本人なる「私」には規範であるのみならず外國人たる「私」にも参考となりうるものである。

この趣旨によつて論考を進めたのが本書である。全篇が必ずしも卓拔なる論述ではない。常識的なと思はれる箇所も少くないが愛國經世の意氣に溢れたものであつて、實踐道德指導に益が少なからざる良書であると信ずる。

(高橋俊乘紹介)

彙報

教育學讀書會

五月五日午後一時より 教育學研究室にて

宗教的自覺と教育

三谷久男君